

活動成果報告書

令和6年度（第28回）「チヨダ地域保健推進賞」

活動テーマ

大和市新型コロナワクチン接種事業における地域連携について

グループ名称・氏名(グループの場合は代表者名)

大和市役所 健康福祉部 医療健診課

代表者：萩原 雅実

勤務先：大和市役所

所 属：健康福祉部 医療健診課

所在地：〒242-8601

神奈川県大和市鶴間1-31-7

TEL：046-260-5662

FAX：046-260-1156



◇活動方針

令和元年12月末、中国の武漢市で初めて確認された新型コロナウイルスは、その後、世界各国に拡大し、同年3月には世界保健機関（WHO）がパンデミックを宣言する等、世界各国で感染拡大防止の取り組みが進められてきた。国内においては、予防接種法等の関連法令が度々改正される中、地方自治体には短期間でのワクチン接種の体制構築、適正な事業運営、迅速かつ柔軟な対応が求められ、本市においては、地域をはじめ、医師会や薬剤師会等の関係機関をはじめとした地域のあらゆる団体・人々の協力が不可欠であり、医療従事者を含めた多職種との連携が非常に重要であった。今回は、新型コロナワクチン接種事業における保健師に求められた役割及び関係機関や多職種との連携について報告する。

1. 本市の接種体制

市では、令和3年1月に他の定期予防接種とは別に新型コロナウイルスワクチン接種の専門部署を設置し、市内協力医療機関約90か所での「個別接種」、7か所の小中学校や公共施設での「集団接種」、団地等に出向くなど、機動的に小規模の接種会場を設営、運営する「別動隊」の3つの体制により接種を実施した。集団接種は同年5月より開始し、1日最大300人接種できる中規模な会場から、最大3,000人接種できる大規模な会場まで開設し、令和6年3月までに、延べ788,412回（うち、集団接種では296,571回）接種した。別動隊では、当時優先的な接種対象とされていた高齢者向けに2か所の高齢化が進んだ団地で実施した。加えて、予約や受付等手続きが困難な外国人向けに市内公共施設に通訳者を配置した会場を設け実施した。

【接種会場の様子】

大和市 保健福祉センター



大和スポーツセンター



活動成果報告書

2. 保健師に求められた役割

(1) 集団接種会場の運営体制構築

コロナ禍での集団接種会場の運営のため、感染対策も含めた安心・安全な会場づくりや、医療従事者の手配、医療従事者へのレクチャー、接種に係る諸案件の対応、救護体制の構築、感染対策も含めたマニュアル作成等。

(2) 安全対策と危機管理

間違い接種を防ぐ仕組みやアクシデント発生時の対応、再発防止策の検討、周知等。

(3) ワクチンの適正な管理

各医療機関や接種会場への配送方法（ワクチンごとの温度管理、振動防止など）、会場における保管方法（特に夏期）の構築、ワクチンの出納管理、余ったワクチンの有効活用方法の構築、個別の医療機関への適正なワクチンの取扱いについての情報提供、集団接種会場でのワクチン充填スケジュールの管理等。

(4) 要配慮者への対応

障がい者などワクチン接種が困難な方に対する個別のニーズに応じた集団接種会場での対応。その他、DV等の配慮を必要とする方の相談等。

(5) 医療従事者とのつなぎ役・多職種連携

医療用語や医療物品等に不慣れな事務職や集団接種会場の受付等を担う委託業者と医療従事者間のつなぎ役、多職種連携等。



ワクチン充填ブース



接種ブース



救護スペース

◇活動内容とその成果

1. 地域における連携について

連携先	内容・成果
市医師会	○地域の医療を担う市医師会との協議は不可欠であり、接種体制、集団接種会場の運営方法、医療従事者の確保、個別接種の方法等について、令和2年12月から、多い時は週に1回、合計42回の会議を開き協議を行った。また、接種体制が構築された後も、制度や実施体制が頻回に変化するため、密に協議を重ねることが必要であった。 ○協議の結果、集団接種会場に従事する医療従事者は市医師会が中心となって担い、保健師が中心となって、医師会員の医療機関に連絡し、手配することになった。 ○集団接種会場での接種後の体調不良発生時の救護体制や常備する薬剤等の選定についても市医師会との協議により決定した。特に、市で普段取り扱わない医療物品（酸素や薬剤）の整備に苦慮した。 ○間違い接種発生時や針刺し事故等のアクシデント発生時には、情報を共有し、医師会員へ周知（注意喚起）する等、接種における精度管理や安全管理を徹底した。
薬剤師会 市立病院薬剤師	○地域の薬局薬剤師は、主に集団接種会場でのワクチン充填業務を担った。 ○当時の新型コロナワクチンは、保管や充填、移送方法など複雑な取扱いや厳重な管理が必要であった。また、貴重なワクチンであったため、1回分たりとも無駄にしない工夫が必要であり、会場でのワクチンの取扱いについて、事前に綿密に協議した。会場ではキャンセル等の状況に合わせて充填のタイミングを調整するなど柔軟に対応し、無駄なくワクチンを使用することができた。 ○薬剤師会会長の依頼により、薬剤師実習生への集団接種会場の見学を受け入れ、次世代の医療従事者の育成に貢献した。
集団接種会場	○集団接種会場は、保健福祉センター等の市内公共施設に加え、小中学校、団地に開設した。自治会や各施設管理者など関係者の協力をいただき、迅速な接種会場の確保が実現できた。 ○集団接種開始前には、保健福祉センターにて、医師会医師の協力の下で、シミュレーションを実施した。保健福祉センターに来場していた高齢の市民にも急遽参加してもらい、実際の動きを再現することができ、課題を明確にすることができた。 ○コロナ禍であり、会場に従事する医療従事者の確保が困難であったが、複数の地域の病院の実施協力を得ることができ、迅速で効率の良い接種が実現できた。
大和市国際化協会	○言葉の壁があり、予約方法や会場での受付方法がわからない等の情報弱者になりがちな外国人の方向けに市内公共施設において集団接種会場を開設した。 ○国際化協会には、外国人市民へ必要な情報の周知をはじめ、予約受付、会場への通訳の配置等、全面的に協力いただき、外国人市民への接種も早期に実施することができた。

活動成果報告書



2. 集団接種会場での職種間連携について

集団接種会場を担う医療従事者は、予診・接種の医師・看護師、経過観察の派遣看護師、ワクチン充填を担う薬剤師・看護師等であったが、会場受付などを担う委託業者のスタッフは、予防接種事業未経験者の非医療職であるなど、所属も知見も異なる多職種で構成されていた。さらに、日々異なるメンバーが従事するため、会場では初対面の急造チームで接種や救護等を行わなければならない、安全に実施するには、入念な準備と連携が必要不可欠であった。そのつなぎ役となるのが保健師の役割であったが、担当保健師3名で複数会場を担うのは困難であったため、以下のような体制を構築した。

- 他部署からの応援保健師を各会場に配置し、担当保健師は、各会場からの連絡や報告を受け指示する本部機能を担った。なお、他部署との調整や応援保健師のシフト管理等については統括保健師が担った。
- 市の事業への従事経験が豊富な看護師を医療従事者の調整やとりまとめの補佐として配置し、保健師の役割の一部を担ってもらった。
- 救護対応は、事前に初動担当する医師・看護師を決めておき、接種開始前に必ずブリーフィングを行い、医療従事者同士の顔合わせとともに、救護用薬剤と初動の動き等の確認を実施し、必要に応じて救護のシミュレーションを行った。
- さらに、配慮を要する方が会場での接種を希望する場合には、事前に医療従事者と情報共有し、必要時に別の場所で接種するなど個々のケースにきめ細やかに対応した。その結果、他の障がいを持つ方のご家族からも「この集団接種会場なら接種してもらえるかもしれない。」と相談をいただき、接種につながることができた。

【活動成果】

- 安全・安心な接種体制を迅速に構築することができた。
- 日々発生する課題について、速やかに改善策を見出すことができ、よりよい運営につながった。
- 地域の多機関、他職種と顔の見える関係（ネットワーク）を築くことができた。
- ネットワークを活かした人材育成、相互の技術向上ができた。
- パンデミック発生時における、全庁的な保健師の貴重な経験となった。
- 限られた人員の中でも、役割分担、業務シフトすることで効果的に保健師の役割を果たすことができた。
- あらゆる個別のニーズに対応することができ、地域住民との信頼関係を築くことができた。

◇今後の計画

今後のパンデミックへの備えとして、本市のワクチン接種体制を構築するために、地域の関係機関等とどのように連携し、対応してきたか等をまとめた記録（総括本）を作成した。また、担当部署が設置された当初から事業終了までの３年間をとおして現場に従事した経験を活かし、本事業における保健師の活動を振り返り資料としてまとめ、感染症対策における保健師の役割、視点、専門性、他機関多職種連携、新規事業開始の苦労や、発信、継承の重要性について、他部署の保健師等へ共有することができた。今回の成果を平時の活動に生かし、地域における保健活動を推進していきたい。